

第169回青森県立図書館協議会 会議概要

1 期日

令和6年2月13日（火）

2 開会

午後1時30分

3 閉会

午後3時

4 場所

青森県立図書館（青森市荒川字藤戸119-7）4階 集会室

5 議題

- (1) 令和5年度組織目標に対する評価（暫定）について
- (2) 短期行動指針の進捗状況について

6 フリートーク

今後の青森県立図書館について

7 出席者等

(1) 出席委員の氏名

竹浪 廣美委員、須藤 紀子委員、松井 京子委員、浜田 祐子委員、
秋元 宏宣委員、本間 維委員、佐藤 宰委員、伊藤 友子委員

(2) 欠席委員の氏名

大里 公子委員、澤田 尚委員

(3) 出席した職員

仁和館長、高井副館長、油布奉仕課長、乳井近代文学館室長
企画支援課：奈良岡副課長、松川副課長
奉仕課：原田副課長、木村副課長、清水副課長
近代文学館：石岡副室長
教育庁生涯学習課企画振興グループ：工藤総括主幹

議題に対する委員の主な意見・要望等

1 令和5年度組織目標に対する評価（暫定）について

委員からの意見なし

2 短期行動指針の進捗状況について

○委員

「県内図書館等一斉展示」は、図書館、公民館だけでなく、蔵書が少ない施設も含め40市町村全てが参加したということは非常に良い取組だったと思う。

資料で図書館と近代文学館の状況を比べると取組の熱心さに関きがあるように感じた。短期行動指針として目標を定めるようになってから10年くらい経過したが、図書館の取組目標は10年前からあまり変わり映えしないように見える。ということは、10年間あまり進歩していないのではないかと感じてしまう。次期短期行動指針の策定については、ゼロベースで検討してほしい。そのためにも普段から課題に感じていることについて意見交換しながら、次の短期行動指針の期間で何を目標とし、どこまで達成するのかを真剣に考える必要がある。近代文学館は、日頃から顔を突き合わせて話す機会が多いと思うので、目標を職員全体で認識しており、目標のために取り組んだ部分がしっかり評価できている。一方、図書館は、目標が職員全体に浸透しているのかというと弱いと感じる部分があるので、たくさん意見交換し、目標や取組について、職員全員で共通認識を図るようにしてほしい。

バリアフリーの取組でほじょ犬マークを表示したとのことだが、館内にマークを表示するだけでなく、実際に補助犬を連れてきて、館内を歩いて見せたりするなどしてPRしてみたらどうか。これは一例だが、いかに利用者に図書館の良さや便利さを感じていただくような取組ができるかを考えていただきたい。

○委員

ほぼ目標が達成できているので、図書館の頑張りが感じられた。特に「学校図書館シンポジウム」の中で学校支援事業を紹介したことで、県立図書館の活動の宣伝・周知につながり、効果があったとのことなので、引き続き実施していただきたい。

3 今後の青森県立図書館について

○委員

委員に任命された4年前と比べると図書館・近代文学館ともに情報を外に向かって発信できていると感じる。SNSの活用や高等学校とのコラボの検討を本協議会でお願いしたが、実際、近代文学館で実施していただき、その結果、若い人だけでなく、家族単位での来館につながったとのことだったので、この取組はプラスの方向に働いたのだと思う。このような形でどんどん情報を発信し、みんなに使いやすい図書館に

なればいいと思う。館内に掲示しているオンライン貸出のポスターを見たが、余計な情報がなく分かりやすいと感じた。発信するものに関しては、分かりやすさを重視するとともに発信する相手方を見極め、考えた上でもっと情報を発信していただきたい。

学校では、たくさん図書館を利用したいという気持ちがありながら、教員、生徒ともに書籍から情報を拾うのではなく、ネットから拾うことが増え、それで満足しているところがあるので、図書館を利用するよう生徒に働きかけたいと思う。これからも図書館の情報を外に向けて発信し、色々なところと繋がりながら活動していただきたい。

○委員

近代文学館の展示を見たが、貴重な資料や作品が展示されており、素晴らしい企画展だと思った。当町の社会教育委員にも、青森市に行く機会があったらぜひ近代文学館に寄って企画展を見るよう伝えたいと思う。一方で、展示は素晴らしいが、知らない方がまだまだいると思うので、もっとPRしてこの貴重な資料をたくさんの方に見ていただきたいと感じた。

市町村の小学校の地域学校協働活動推進委員として、学校と密接に仕事をしているが、市町村では、教員が忙しい等の理由により学校図書館に手が回らないという実態があるので、県立図書館から学校図書館への支援を含め、もっと市町村立図書館と連携して学校図書館の充実に繋げていただきたい。

○委員

今、県教育庁生涯学習課で実施しているこどもの読書活動に関する調査に携わっているが、その調査を見ると、中学生は小学生と比べて読書量が大幅に減少している。例えば小学校時に30冊本を借りているのに、中学校になると5冊程度になってしまう。大幅な減少とならないようにまず、学校図書館が頑張っ取り組んでいかないといけないと思うが、一方で、県立図書館、公共図書館も取り組んでいかなければならないと思う。調査項目の中に学校と公共図書館との連携があるが、小学校だと80パーセント程度だが、中学校になると連携の多い地域で50パーセント、少ない地域だと5パーセント程度と連携においても中学校になると大幅に落ち込む傾向になっている。大人になっても読書を続けるかどうかは、こどもの時の習慣が大事だと言われているが、中学生になると読書に関わらなくなるというところに県立図書館としてどのような取組ができるか考える必要があると思う。公共図書館としては、県民全員へのサービスの提供が大事だが、こどもの読書活動に県立図書館としてどう関わっていくのかというところをぜひ考えていただきたい。

○委員

中学校で学校図書館の司書をしていたので、中学校になったら読書量が大幅に減少するという話は耳が痛いですが、実際そのように感じている。こどもたちにとって学校の図書室にある本は堅苦しい感じがするのかわ、あまり好んで読まないが、簡単に読みやすいライトノベルは手に取って読んでいる。貸出冊数を伸ばすための工夫は、学校図書館、公立図書館それぞれが取り組んでいかなければならない課題だと思う。

近代文学館の展示を見させていただいた。県立図書館に近代文学館があるというのは、先日、企画展の広報番組をNHKで放送されてるのを見て初めて知った。県立図書館の2階に近代文学館があるということがまだあまり周知されていないのかなと思う。大変素晴らしい展示をしているので、この素晴らしい展示を子どもたちに見せるにはどうしたらいいか考えた時、県内各地域の学校に近代文学館の職員が行って、展示等のPRをすればいいのではと思う。ポスターを学校の廊下に貼っても周知に繋がりにくい。職員が直接学校に行って、県立図書館、近代文学館のPRをすれば確実に周知されるのではないかと思う。併せて、遠隔返却のサービスはとてもいいと思うが、登録しなければこのサービスは利用できないので、この登録や利用の仕方も学校に来て教えていただければと思う。実際に学校に職員が行って施設やサービスのPRをすることが効果的だと思う。

○委員

もうじき県立図書館が100周年ということで、県民生活、市民生活を支える無償の情報サービス機関として、時代の変化に合わせ、進化していただきたいと思う。そのために、どうすればいいのかを日頃から考える必要がある。例えば、県立図書館でもデジタル化が進んでいるが、ITを利用して、広い県域において、どこからでも誰でも情報にアクセスできるよう他県に先んじて取り組んでほしい。それから、市町村立図書館を支える機関として、市町村立図書館の人材育成について、県立図書館が中心となってもっと強く推し進めてほしい。また、これからも相互利用等の仕組みを強化して、できるだけ県民の皆様に地理的なハンデを感じさせない取組を進めていただきたい。

また、職員の中で目標を共有していただきたい。目標を立てたが忘れてたり、意識できないのであれば、目標を立てた意味がないので、そこはしっかりと目標を共有し、意識して目標達成に向けて取り組んでいただきたい。そのためにも県立図書館の中でも専門的な人材をしっかりと育成していただきたい。

さらに、課長以上に図書館に詳しい方を配置したり、この協議会もどのようなメンバーにすればよいか検討するなど、図書館の活性化を進めていただきたい。

○委員

近代文学館では現在、文学食堂というテーマで企画展を開催しているが、堅い分野である文学を身近な食というテーマに関連付けて展示することで、誰もが親しめる内容となっており、この発想はおもしろいと感じた。こういう身近なテーマの展示は、新しい目線であり、また、みんなが親近感をもって見れる展示だと思うので、新聞記事として非常に取り上げられやすいのかなと思う。また、県立図書館、近代文学館単体だと、新聞にとりあげられない可能性もあるので、今後は、美術館や博物館等、色々な分野と連携した取組、イベントをすれば、各メディアに取り上げられやすいと思う。また、県内の古書店、書店と連携した事業やイベントを開催するのもおもしろいと思う。今後、100周年に向けた企画等考えると、各分野と幅広く連携すればおもしろいものができると思う。

○委員

協議会の委員に就任する前は、県立図書館のことは全然知らなかった。イメージとしては、難しい何かを調べるなどのことがないと利用しないと思っていた。しかし、本協議会に出席して、県民に寄り添って色々なサービスをしているということが少しずつ分かってきた。先ほど、事務局の説明で、チラシ、テレビ、ラジオ等の広報により県立図書館の取組やサービス等が周知されてきているとあったが、広報はやはり重要だと思っている。目が不自由な友人がいるが、2、3日前に、現在、近代文学館で開催しているあおもり文学食堂の話をされたので、どうして知っているのか尋ねたところ、ラジオで聞いて、興味を持ったとのことであった。このことから広報は重要だし、また、チラシを各機関に掲示するだけでなく、個人個人の手直接渡す方がより効果があると思うので、小さな取組かと思うが、一人一人に情報を発信するよう取組をしていただきたい。

○委員

学校生活の中で読書をする時間の確保が難しいし、また、学校で本を借りて自宅に持ち帰って読んでいるこどももいるが、絵本はサイズが大きいものもあるため、持ち帰りが難しい場合もある。以前も話題にしたが、こどもがゆっくり時間を使える学童保育に、移動図書として本を貸し出したり、県立図書館で実施している「お話し会」や「知るしるする探検隊」を出張して開催するなどしてはどうか。実施するとなれば、市町村立図書館と共同になると思うが、共同で実施することでノウハウを市町村立図書館に伝えることができるし、実施例があれば、各市町村立図書館が参考にして、市町村立図書館単体でもこのような取組が可能だと思う。

棟方志功記念館が今年度限りで閉館となり、残念に思っているが、県立図書館の利用者の目に付くホール等に棟方志功の作品を展示する企画ができれば素敵だと思う。

○委員

将来的に人口、財源ともに減っていくことが予想される中、教育委員会の施策の中で社会教育施設である図書館に係る予算の優先順位は高くないと感じている。そのような中でも図書館としての役割を担える図書館を維持していくための方策は必要だと考えており、そのためには、人材育成が重要だと感じている。県立図書館は、毎年、図書館職員向けの研修を実施しているが、研修に加え、人事交流についても検討していただきたい。具体的には、県立図書館の司書と市町村立図書館の司書を1年間、人事交流する。県立図書館の司書は、市町村立図書館の予算のあまりない中での運営、サービス等の工夫を学ぶことができるし、市町村立図書館の司書は、資料費等予算がある中での選書の経験、より深い内容のレファレンスへの対応等を経験することができる。

人材育成はすごく大変であるが、図書館を背負って立っていける職員を増やすためにも県立図書館と市町村立図書館が協力し合い人材育成ができないかなと思っている。

「県内図書館等一斉展示」のイベントをテレビで広報し、その中で五所川原市立図書館の取組が紹介されたが、市外の方が来館するなど、普段利用しない利用者が多く来館され、テレビでの広報は強い効果があると感じた。

○委員

学校図書館を担当している教諭は大抵学級担任をしており、学校図書は校務分掌の一つであることが多い。学校図書館の運営に専念できる環境がない中で、平成25年に青森県教育委員会で作成した「学校図書館活性化マニュアル」が各学校に配付された。この中には本の登録、修理、配架等、基本的な事項が掲載されており、学校では大変参考になるマニュアルであるため、可能であれば、作成から10年以上経過していることから、最新の情報が掲載されたものを作成していただければ、学校図書館を担当している教員は大変助かると思う。

○委員

学校図書館については、教員が普段の業務で多忙の中、なかなか学校図書館の業務に従事できないということで、学校図書館の業務に従事する学校司書を配置すればいいのではということになったが、様々な課題があり、なかなか十分な人数が配置されていない状況である。そのような中で毎年、県教育委員会で学校図書館シンポジウムを開催しており、様々な課題等とその方策について、共有し検討しているが、なかなか課題等が解決できていない状況だと思う。学校図書館の中で子どもたちは情報の獲得の仕方、書籍に対する向かい方等を学んでいくことになると思うので、学校図書館の適正な運営を、県立図書館及び市町村立図書館の大きな課題として受け止め、解決に向けて頑張っていたいただきたい。

○委員

五所川原市立図書館では、弘前大学の学生が受験する際に参考にした本やこれまで読んできた本を展示しており、また、高校の学校図書館に一式貸出する取組をしている。このような学校図書館と公共図書館の協力、連携がもっとできればおもしろいと思う。また、作家のパネルを借りて、学校で展示する際、作家の紹介文のところに作家の出身校を追記することで、生徒が自分と同じ出身校の作家もいるんだと楽しんで見ていたという経験がある。そういった工夫により、子どもたちの目を引いて、図書に親んでもらうきっかけになることもあるので、色々考えて取り組んでほしい。

近代文学館で文学と食で企画展を開催しているが、子どもに身近な自転車と作家や、青森県には色んな伝統工芸があるので、伝統工芸と作家などどうかなと思う。今後の企画展示のアイデアの一助になればと思い発言させていただいた。